



インターンシップの最後のお仕事としてツナカンの作成をしました！学生スタッフの3人とインターン生で頑張りました！たくさんの方々の声がつまったツナカンになったと思います！（インターン生 池田）



発行元：NPO法人アクションポート横浜
URL：http://actionport-yokohama.org/
メンバー：池田桃花、鈴木裕美、高須賀桃子、山岡博樹

アクションポート

検索



※本冊子は公益財団法人トヨタ財団「2015年度イニシアティブプログラム助成事業」の協力により制作しました。

ツナカン 2015

大盛り

ツナカン ガルカン ケイ

“インターン生が作る”
インターンシップ 2015
報告書



2015年度に実施したアクションポート横浜の3つのプログラム

①NPOインターンシップ

②企業インターンシップ

③若者定着支援事業



横浜市内外の NPO の一員として活動するインターンシッププログラムです。横浜市内 8 大学と一緒にプログラムを運営しています。

p2～5へ

地域に向き合い社会に貢献する横浜市内の地域企業の現場を体験出来るインターンシッププログラムです。

p6へ

活動に若者を巻き込みたい団体に対して、「伴走者」を派遣し、団体の悩みを一緒に考え、解決していくプログラムです。

p10へ

♡ NPOインターンシップとは

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです。

プログラム内容



Step 1

NPOと学生のお見合い会

参加学生と、受け入れ団体の方が直接話す事ができる機会です。さまざまな団体を見て、活動する団体を選びます。



Step 2

事前研修会

実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。



Step 3

志望先の調整&面接

志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。

インターンシップ参加者アンケート
「NPOを身近に感じられるようになった」 (大学2年生・女性)
「活動している人の熱い想いを知ることができた」 (大学3年生・男性)
「自分の住んでいる地域でも活動したいと考えるようになった」 (大学3年生・女性)



Step 5

修了式・成果報告会

活動してきた事を振り返り、活動内容を共有します。最後に修了証を受け取り、プログラムは終了です。



Step 4

活動体験

(短期：10日間、長期：6ヶ月間) 各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流会も開催。

実際どんな事をするの？

イベントの企画・運営をしたり、子供と遊んだり、時には会社へ営業に出掛けたりと、インターンシップの内容は多岐に渡ります。「環境」「福祉」「国際協力」など、幅広い分野のNPOが参加していますので、あなたの活躍できる場がきっと見つかります。

どんな人が参加しているの？

横浜市内8大学の1年生から4年生までの幅広い学部所属の学生が参加しています。ボランティアや、インターンシップ経験のない参加者がほとんど。初めて参加しても、自分次第でさまざまな関わり方ができます。インターンシップ終了後に、スタッフとなったり、現在もボランティアで活躍されている卒業生がたくさんいます。

それでもやっぱり不安…

- ・事前の研修がしっかりしているので、目的・目標を意識しながらインターンシップに取り組む事ができます！吸収した事をアウトプットする場もあるので、自分自身を見つめ直す事でより成長を実感できます。
- ・様々な団体でインターンシップをする学生が、一同に集まる機会が何度もあるので、不安を共有できたり、刺激しあう事でより良い活動につながります。



OGからのメッセージ

2012年度NPOインターンシップ参加
システムエンジニア
齋藤百合恵さん



大学4年生だった頃、私は子育て支援広場びーのびーので2週間、寿町でホステルを運営するコトラボ合同会社で半年間、インターン生として活動しました。このNPOインターンシップ事業のいいところは、学生が現場の温度感に思う存分浸れるところ。インターン生がお客様でも研修生でもなく、団体のいちメンバーとして活動を(少なからず)支える存在になれることだと思います。

私はまちづくり、地域のコミュニティづくりへの興味をきっかけにNPOインターンシップへの参加を決め、活動を始めてすぐに「現場ってすごく面白い！」と気付き、活動に熱中しました。現場に出て実際に何かをやってみる、その繰り返しから、自分にできることや好きなこと、コミュニティを支えるスタッフや創業者のすごさ、今まで本やネットから間接的に知っていただけだった社会課題を取り巻く状況……多くのことを知りました。成功も失敗もひっくるめて経験は財産です。後から振り返ってみると、多様な関係者がいる中での柔軟な物事の進め方や、多少のトラブルでは動じずリカバリに走れる強さ、そういった仕事の土台となる部分をNPOインターンシップで知らず知らずのうちに身につけていました。

また、インターンシップでは人生を楽しみながら主体的に生きている大人と出会う機会がたくさんあります。仕事だけでなく生き方の面について学生のうちに多くのお手本を見られたことも、社会に出てからの生き方にプラスの影響があったように思えます。

学生のみなさん、「学生のうちしかできないこと」なんてものは実はありませんが、限られた学生生活です。今の自分が一番やってみたいこと、心惹かれること、面白そうだと思うことに、ぜひ惜しまず時間を使ってみてください！



(活動当時の写真)

2015年度の活動

2015年度は47名の学生が参加しました。受け入れ団体は、横浜市内および近隣地域を活動拠点とするNPOなど約20団体。このプログラムは、横浜市近隣の8校(横浜国立・横浜市立・桜美林・神奈川・関東学院・フェリス女学院・明治学院・横浜商科)と一緒に運営しています。

短期体験コース	期間：10日前後(80時間)	参加者：43名
長期実践コース	期間：3-6ヶ月(200-400時間) 週1~2回	参加者：4名

《参加するには》

4月頃からホームページで募集が始まります。NPOインターンシップに挑戦してみたい方！ぜひチェックしてみてください！

インターンシップ アクションポート <http://actionport-yokohama.org/npointern/>

♡ NPOインターンシップ受け入れ団体一覧



**片倉うさぎ山公園
遊び場管理運営委員会**
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



**鯛ヶ崎公園
プレイパーク管理運営委員会**
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



**障害者自立生活センター
IL・NEXT**
障害者自立支援



NPO法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援、地域支援



**NPO法人
日本竹ファンクラブ**
環境保全 (竹林)



横浜自然観察の森
環境保全 (教育・調査・管理)



**コトラボ合同会社
(ヨコハマホステルヴィレッジ)**
コミュニティ再生、起業



NPO法人ぐらす・かわさき
コミュニティカフェ、市民活動支援



NPO法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



**NPO法人びーのびーの
(子育て支援運営団体)**
子育て支援



NPO法人教育支援協会
子どもの体験学習支援



NPO法人さなぎ達
生活困窮者自立支援



NPO法人WE21ジャパン
リサイクル、国際交流



**NPO法人
地球市民ACTかながわ**
国際協力



**NPO法人
横浜NGO連絡会**
国際協力



NPO法人アークシップ
まちづくり、アート



**NPO法人
アクションポート横浜**
市民活動支援

受入担当者インタビュー

Q1 ▶ インターン生による団体内的変化はありますか？ Q2 ▶ 今後の

NPOインターンシップに期待することはありますか？ Q3 ▶ この報告書を手に取った人へのメッセージをお願いします！



コトラボ合同会社
嶋間さん

- Q1 ▶ A1** 通常の業務では行き届かなかった作業に関わってもらって、細やかなサービスを提供出来たり、若者目線の新鮮な意見を取り入れる事、また職場に活気がでて良い交流が生まれました。
- Q2 ▶ A2** 学生の「やりたいこと」、企業の「やりたいこと」を良い形でマッチングでき、相互扶助で関わっていけるような仕組み作りを期待します。
- Q3 ▶ A3** 机の上では学べない事が、ここには沢山あります。それをまた机の上に持ち帰って、活かしてもらえたら良いと思います。



NPO法人 地球市民ACTかながわ
伊吾田さん

- Q1 ▶ A1** 当初から積極的な姿勢でボランティアに取り組み、団体内に活気をもたらしてくれた。他のボランティアさんともその人柄から、すぐに打ち解け、団体にたくさんの笑顔を生んでくれた。団体のスタッフ間にも前にも増してこの貴重な人材を育成しようとする気持ちが芽生え、当会のインターンシッププログラムの内容改善にも貢献してくれた。心より感謝しています。
- Q2 ▶ A2** 本NPOインターンシップの卒業生ネットワークを構築し、NPO (市民活動) を盛り上げる活動を期待する。本インターンシッププログラムは前身も含めると10年以上の歴史があり、多くの市民活動マインドを持った人材が育成されている。ぜひ卒業生をつないでいただきたい。
- Q3 ▶ A3** できることから楽しく始めてみませんか？それが身近なところや、アジアの子ども達の笑顔につながり、より良い豊かな社会・世界を作ります。ボランティア内容は誰でもできる簡単なものからスタッフ級のものまでそれぞれに合った形でご参加いただけます。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

企業インターンシップとは

横浜市内の地域企業の現場を体験出来るインターンシッププログラムです。プログラム内容や期間は募集企業によって様々ですが、地域に向き合い社会に貢献する仕事を体験する事ができます。

2015年度の活動

2015年度は7名の学生が参加し、半年間活動しました。



横浜グリーン購入ネットワーク

活動内容
カーボンオフセット補助金営業



横浜中華街パーキング協同組合

活動内容
広報課題解決、就職説明会の企画・運営



株式会社 野毛印刷社

活動内容
商店街活性化プロジェクト企画・運営



石井造園株式会社

活動内容
現場作業、盆栽カフェ企画・運営

《参加するには》

企業インターンシップは企業ごとに募集期間が異なります。ホームページやSNSで募集しますので、ぜひチェックしてみてください！

インターンシップ アクションポート <http://actionport-yokohama.org/npointern/>

インターン生の半年間 (例：横浜中華街パーキング)



鈴木裕美さん
(当時神奈川大学2年生)
活動時期：2015年2-8月



2・3月
面接！初出勤！
社会人として扱われる日々に圧倒



8月
最終日は社内報告会！
振り返ってみて、素敵なインターンだったなと号泣しました！



4月
大学の講義でインターンの活動を発表！



5月
総会の資料を作成したり、GWということもあり繁忙期でバタバタ！



6月
完全に仕事に慣れてきて、課題に取り組む日々。(海外のお客様にむけて精算案内を作成！)



7月
取り組んでいたスマートフォンサイトが完成

受入担当者からコメント



株式会社 野毛印刷社
阿部さん (写真1番右)

弊社では企画実現に向けて奔走するインターン生の姿を目の当たりにした社員を中心に企画を成功させようという気運が自然と高まりました。これからもインターンシップが社員と学生の双方にとって仕事の魅力を知り、成長する機会になることを期待しています。自ら考え行動する意欲のあるインターン生との出会いが今から楽しみです。

インターンシップ参加学生感想



(写真中央)

NPO法人地球市民ACTかながわ / TPAK 長期インターン生

産業能率大学 3年 柳田周子さん

私は今まで、学外の活動をしたことがなく、行動力を伴わない自分に自信が持てずにいました。就職活動で悩み始めたときゼミの先生を紹介を受けて、自分の興味のある分野に挑戦できるという点に惹かれ、インターンシップへの参加を決めました。インターンを通して学んだことがあります。私はインターンを始める前、国際協力に対して間違った認識をしていました。現地で学校を建てる。井戸を作る。現地でしかできないこと、そして、途上国や貧しい地域に対して何かを与えるものだと思っていました。しかしそれは大きな間違いでした。思いやる気持ちを持って常に行動すること。これこそが、インターンで学んだ国際協力です。上から下への自己満足な支援ではなく、現地でしかできないものでもなく、同じ地球市民として、隣にいる人を、家族や友だちと同じように思いやる。そんな、国際協力が理想だと思っています。そして、目標だった行動力がついて自分に自信が持てるようになりました。様々なインターンワークを通して、任せて頂いた仕事をきちんとこなしたり、イベ

ントでは企画書から作成して本番も大成功で終わることができ、最後までやり遂げることをたくさん経験でき、自信につながったのだと思います。またこの長期のプログラムに参加したことで、長期インターン生という仲間ができました。所属や仕事内容こそ違うものの、同じ長期インターン生として悩みを共有しあったり、時にはアドバイスをしたり、してもらったり。切磋琢磨して頑張っている仲間を見て感化されたりもします。皆のおかげで半年間で様々な立場の人とたくさん出会い、たくさんの貴重な体験をしました。

この経験を忘れず、迷ったときは誰かのために、何かのためになる方を選択して、人に影響を与えたい人になりたいと思います。



横浜グリーン購入ネットワーク インターン生

フェリス女学院大学 3年 酒井莉奈さん

私のインターン内容は、カーボンオフセット普及のための補助金事業の企業向け営業と申請業務、そして横浜の海を生かした新たな環境事業を企業に広めることでした。大学では環境系の団体で活動していますが、それとは異なった、社会で環境を専門に扱う「ビジネスとしての環境」を体感できる良い機会を持つことができました。環境政策に関して、提案している行政側とそれに対する企業側、双方の意見や動きを直に知ることができ、勉強になることはもちろん、とてもおもしろいと感じました。活動の中で1番期間が長かったのが営業でした。自分で6件プレゼン、うち半分は初めての企業に挑戦！という目標を立てていましたが、営業は7件、うち3件はつながりを使って新しく開拓した企業に営業をすることが出来ました。業務内容は緊張する分、達成感のあるものだったなと思います。横浜の中小企業と関わることが多かったのですが、ここでは「横浜のつながり」の強さを感じることができました。また今回のインターンでは、以前か

ら関わりのあった方々を通じた新たなつながりを得ることで営業を獲得出来たり、他の企業や団体でインターンをしている同期の子たちと仲良くなることで、自分の興味関心の幅が広がったり、たくさんの刺激を受けることもできて、とても楽しかったです。インターンをはじめた当初はとても不安だったのですが、そこでの新しい出会いや経験は、それを吹っ飛ばしてくれるくらい大変だけど楽しい、得ることがたくさんあるものでした。支えてくれる人や仲間が必ずいるので、迷わずに挑戦してよかったなと今は思っています！



♡ インターン生座談会

インターンシップで活動した、3人の学生で座談会を行いました。
活動のきっかけや、思い出話、苦労した事など、それぞれの活動の経験を語り合いました！



司会：今日はよろしくお願いします。まずは自己紹介から！

松澤：障害者自立生活センターIL・NEXTで短期インターンをしていた明治学院大学2年の松澤沙椰果です。大学ではテニスサークルに所属しています。

野口：野毛印刷社で企業インターンをしている関東学院大学3年の野口彰太です。大学では地域密着型の活動をしているボランティアサークルに所属しています。

阿部：教育支援協会で長期インターンをしている東海大学3年の阿部駿です。大学では、留学生との交流や外国籍の子どもへの学習支援をしている国際ボランティアサークルで活動しています。

司会：では、インターンを始めたきっかけから聞きたいと思います。

阿部：2年前のよこはま国際フォーラムで教育支援協会が開いていた講座に参加したのがきっかけです。そのときに団体の方からアクションポートのインターンプログラムを紹介してもらいました。

野口：自分は教師を目指しているのですが就活はしないけど、いろんな職業を見てみたいという思いがありました。そんな中、インターンを紹介してもらい、挑戦してみることにしました。

松澤：所属しているゼミのプログラムで、インターンに参加しました。障がい者に対する先入観をなくし、今まで関わったことのない人と心から理解し合いたいと思い、IL・NEXTでインターンすることを決めました。

司会：きっかけはさまざまですが、実際に活動してみてどうでしたか？

松澤：IL・NEXTにいらっしゃる脳性麻痺の障がいを抱えた方には言語障害があって、最初は何を言っているのか聞き取ることが難しかったです。段々慣れていき、会話が弾んだときの喜びをいつもより強く感じました。みなさんとの会話を通して、「人と会話をすることってこんなに楽しいんだ！」という当たり前のことに気づくことができました。

野口：インターンを通して、ただ待っていても仕事を与えられるわけではないと学びました。ごはんを食べる時間を削って他の会議にお邪魔したり、会社以外の方とお会いするときも自分から積極的に話すように意識しました。まだ学生なので甘やかしてもらっている部分はあるけど、社会の片鱗を知れただけでもよかったです。

司会：ありがとうございます。そんなインターン先の人とみなさんの関係はどんなですか？

松澤：IL・NEXTは、自分の「もうひとつの家」のような優しい暖かい雰囲気でした。ひとりひとりが優しく暖かくて、障がいがあることに対してマイナスの感情が生まれない空間で楽しかったです。

阿部：元々担当者の方と知り合ってから始めたのですが、インターン中も変わらず良くして頂きました。また、NPOで活動している想いを持った人の話がたくさん聞けて面白かったです。特に飲み会ではそういった熱い想いに触れることが多かったです（笑）

野口：インターン生だけど、会社の一員としてちゃんと叱ってくれます。最初は「また怒られたよ」とあまり良く思っていませんでしたが、今はその愛を感じ取れるようになったので嬉しく思っています！

司会：みなさん、インターンを一緒にした仲間がいると思いますが、そんな仲間との関わりはいかがですか？

松澤：最初は周りのインターン生も障がい者の方と触れ合ったことがなかったので、ぎこちなかったですが、お互いフォローしあいながら活動できて、安心しました。

野口：私は2人でインターンをしているのですが、会って話していないので意見が合わないことも多くあり、会社に迷惑をかけたこともありましたが、2人だと自分の中に無い意見が生まれてきて、企画を練るときにすごくよかったです。

阿部：一緒に頑張っている長期インターン生は、自分にとって大切な仲間です。最初はちょっと距離がありましたが、毎月顔を合わせているうちに段々仲良くなれました。そんな仲間が頑張っていると、何も達成出来ない自分を悔しい思いにさせてくれました！

司会：インターンする前と後ではインターン先のイメージは変わりましたか？

阿部：今までNPOと関わったことがなくて、実際に地域でどうやって活動しているのかわかりませんでした。しかし、実際にインターンしてみて、NPOもひとつの団体でやっているわけではなく、地域や他の団体と繋がっているから活動できているんだと気づくことが出来ました。

野口：印刷会社なので、印刷だけしているのかと思っていました。しかし、実際にインターンしてみたら、印刷

以外にも動画やデザインの制作、地域貢献の活動等幅広く行っていることを知りました。しかし、その背景には印刷だけでなく、他の事業も進めていかないと生き残れない、という厳しい現実があることを教えて頂きました。

司会：最後の質問になります。みなさんはこれからインターン先とどのように関わっていきたいですか？

松澤：インターン最終日に声をかけてもらったご縁で、3月からバイトをさせてもらうことになりました。これからは、スタッフとしてより深く関わっていきたいです。今後はもっとみなさんに心から寄り添えるようになりたいです。

阿部：これから就活や卒論が始って忙しくなりますが、行けるときには顔を出せるようにしようと思います。インターンで得たものを、これからの人生で活かしていくのが恩返しかなと思うので、頑張ります！

野口：僕は教師を目指しているので、これから先企業との関わりは強くないだろうと思います。しかし、先日社長と「横浜の未来」について話す機会があり、自分の興味があることでもあるので、自分の力を生かせる限り関わりたいと思います。

司会：皆さんの熱い思いがこれからの横浜を盛り上げていく原動力になることを期待しています。今日はありがとうございました！



障害者自立生活センターIL・NEXT短期インターン生
明治学院大学2年
松澤沙椰果

自分と向き合う力を得ることができました。一足先に社会人の方々と仕事を共にすることで、自分の欠点や足りない部分を目の当たりにし、スキルを上げていく貴重な経験になったと思います。自分のマイナスな部分に気づいてもへこむことなく、何事にもチャレンジする意欲をもって自分からどんどん踏み込んで行ってください！



株式会社野毛印刷社インターン生
関東学院大学3年
野口彰太

なぜ自分がインターンシップを始めるのか、目的を明確にしゴールイメージをしっかりと持ってください。日々の仕事に追われても絶対にその目的、ゴールイメージを忘れないでください。そうすれば日々の行動にあなたの求めているものが表れ、思考と行動が一致してくるはずです。日に日に成長する自分を感じ、毎日を生き生きと過ごせるはずです。一緒に頑張りましょう。



NPO法人教育支援協会長期インターン生
東海大学3年
阿部駿

後輩に向けてメッセージ

可能性（チャンス）は自分で広げて、自分で掴めるものだ学びました。インターンシップでどれだけのことを学び、経験できるかは自分の積極性次第です。たくさん行動すればその分成長できる可能性が増えていきます。失敗を怖がらずにどんどんチャレンジしてみてください。どんなことも成長に繋がっているはずですよ。

「若者に活動に参加してもらいたい！」と思っている神奈川県内の団体の皆さんと一緒に半年間、若者の活動参加と定着について考え、活動してきました。

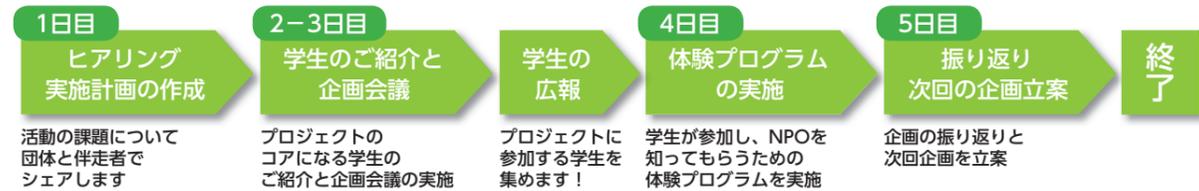
1) スケジュール

6月基礎講座 ▶ 7-12月 個別支援 (伴走者派遣) ▶ 3月報告会

2) 参加団体と主な活動

団体名	主な活動内容
NPO法人さがみはら市民会議	イベントへの学生の参加
NPO法人横浜シティガイド協会	学生との協働企画「横浜たんけんたい」の実施
NPO法人アクト川崎	生田サマーミュージアムボランティア体験
NPO法人STスポット	インターン生を募集し、3ヶ月間活動
ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf	大学への絵本展示、大学祭での広報
NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ	インターン生が中心となり交流企画を実施

3) 個別支援活動事例 *横浜シティガイド協会



4) 体験者の声

■学生側



フェリス学院大学3年 長岡恵理さん

私たちは夏と冬に小学生を対象に横浜の街をガイドする企画を行い、約40名近くの小学生に参加してもらいました。小学生の低学年にガイドをするという事で、最初は「伝わる」に重きを置き、難しいと思われる内容を省いていました。しかしシティガイドの方から「伝わった」という事も大切だけど「伝える」ことも大切だよ」という事を教えて頂き、少し難しい内容も私たち大学生が「伝える」ことでどうにかして「伝わる」にならないかと試行錯誤しながら企画作りを行うことができました。

■企画を通して感じた事

大学生は完璧なガイドとまではいかないかもしれないが、教えてあげる事だけではなく一緒に魅力を発見していこうという姿勢を少し身近な先輩として子どもたちに見せる事が出来るというのも魅力の一つではないだろうか。

■団体側



横浜シティガイド協会 玉田三輪子さん

アクションポートと一緒に学生に広報し、集まった学生に当会の活動概要などは説明したものの、法人内で活動して頂く状況が整わずに当初、彼らの存在は宙に浮いてしまいました。しかし、彼らは子ども向けガイド企画を、自ら立ち上げ、連日の会議、コースの検討、本町小学校キッズスクールとの折衝、当会開催の座学やコース下見などをこなし、子ども向けガイド企画「横浜たんけんたい！」を開催することができました。彼らと密にコミュニケーションをとる中で、新しい方向性が見え企画を作ることができました。満足げに活動をあとにした子ども達、達成感を味わう大学生、地域との橋渡しをした当会、今回の事業を完結させたのは、善意と熱意の連携プレイが決め手でした。

■神奈川大学 経営学部 山岡義卓先生

仕事柄さまざまなインターンシップ報告会等に参加させていただく機会がありますが、こうした報告会に参加して感じるのは、昨今、インターンシップのあり方はずいぶん多様になってきているということです。ごく一般的な企業での短期インターンシップのほか1か月から半年に及ぶ長期インターンシップ、グループで課題に取り組むプロジェクト型、地方に滞在して地域課題に取り組む滞在型など、さまざまな形があります。しかし、本インターンシップのように、受け入れ機関をNPOに特化したインターンシップは、多くありません。

その理由はいくつかあると思いますが、たとえば、既にボランティアの学生が関わっているNPOでは、あえてインターンシップの学生を受け入れる理由が見出しにくいということがあるでしょうし、また、就職活動を念頭に置いてインターンシップに参加する学生は、NPOを実習先として選びにくいということもあると思います。いずれにしても、現状では、NPOとインターンシップの相性は、あまりよくないように思われます。

しかし、だからといってNPOインターンシップに意味がないということではありません。実際、本インターンシップに関して言えば、学生には、NPOの世界への入口の機会を提供していますし、また、受け入れ団体においても、自分たちの活動やミッションを学生たちに知ってもらう機会になっています。ほかにも、学生や団体ごとにさまざまな意義を見出すことができるはずで、このようなインターンシップは、他であまり行われていないがゆえに、その意義もまた他と違い、オリジナルなのだと思います。もちろん、課題も多くあると思いますが、このような実践が、インターンシップとNPOの相応しい関係をつくっていくのだと思います。

こうしたことは、すでに実習を終えた学生のみならず、あまり関係のないことだと感じるかもしれません。しかし、そうではありません。皆さんは、受け入れ団体の方をはじめ多くの関係者の支えにより、このインターンシップに参加し、学習の機会を得たわけですから、ぜひ、その恩返しをしていただきたいと思います。それは、たとえば、インターンシップで自分が経験したことや学んだことを周囲に発信すること、インターンシップに参加することを考えている後輩や友人がいれば、こうしたプログラムがあることを紹介すること、さらには、受け入れていただいた団体の活動に今後も継続的に関わっていくことなどです。こうしたことが、このプログラムの価値を高め、今後の活動を支えていくことにつながります。「成果報告会も終わったし、報告書もまとまったので、これでおしまい」、ということではなく、みなさんには、今後も、この取り組みを支えていくメンバーのひとりとして関わっていただきたいと思います。そして、それがそのまま、前述の「インターンシップとNPOの相応しい関係づくり」につながっていきます。

ところで、学生のみならずいろいろと申し上げましたが、私自身の立場でいえば、相変わらず、本学からの参加者が少ないのは、残念なことです。私も学生のみならず一緒に、もっと情報発信やはたらきかけをしていかなければならないと感じています。そうすることにより、このインターンシップが、地域にとっても、受け入れ団体にとっても、学生にとっても、より望ましいプログラムになるようにと願います。

最後になりましたが、本インターンシップにおいて、学生たちを快く受け入れていただき、また、丁寧にご指導をいただいた受け入れ団体の皆様には、大学関係者を代表しまして、改めて心より感謝とお礼を申し上げます。

■公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム プログラム・オフィサー 喜田亮子さん

本NPOインターンシップ事業の特徴は、中間支援組織であるアクションポート横浜が大学、学生、NPOをつなぎ、プログラムを運営している点にあります。そのことの価値は、大きく3つあると感じています。

具体的には、①ネットワーク形成：学生同士、NPO同士の横のつながりのみならず、大学とNPOの連携も深まります。また、同時期に実施された企業インターンシップと合同で成果報告会が実施され、多セクターのネットワークが生まれていました。②参加の広がり：複数の団体の中からインターン先を選択できる、短期と長期のプログラムが選択できる、研修や定例会などのフォローがあることで特別な知識や経験がない学生・団体でもチャレンジできるプログラムとなっています。③学びと知の蓄積：定期的な情報交換や報告会などの場があることで、個別の団体に蓄積されてきたノウハウや学生が得た学びが共有され、個の学びにとどまらずコミュニティの学びとなっていることを感じました。この3つ目こそが一番の価値だと私は感じています。変化の多い時代において、社会課題解決の主体者となる若者をどう育てていけるかは重要なテーマです。NPOにとどまらず、大学、企業、行政も巻き込み地域全体として、知恵を共有し、取り組んでいくことが必要です。成果報告会では、NPO、企業、大学ともに地域に貢献したい、若者の育ちを応援したいという志は一つであると感じました。志を成果につなげるためにインターンシップというプラットフォームで知が蓄積され、社会で共有されていくことを次年度以降さらに期待したいと考えます。